

IZUMI JUNIOR COLLEGE

宗教部 便り

EX HOC CHRISTI FONTE PURITAS
ET CARITAS JUVENTUTIS SURGANT

第44号
2012年3月10日

発行兼編集 宗教委員会
発行所・和泉短期大学

神奈川県相模原市中央区青葉2-2-1
TEL 042(754)1133(代表)
FAX 042(753)2087
URL http://www.izumi-c.ac.jp

正しい奉仕とは何か



理事長 深町 正信

コリントの信徒への手紙二、第八章一―十節には私たちの行う正しい奉仕とは何かについて、使徒パウロがコリントの教会の人々に宛てた手紙の中で教えています。彼は、この手紙の中で、エルサレムの教会の困窮を訴えるとともに、そのことを心から憂えています。そして、エルサレムの教会に対して、これらの人々を助けるために援助と献金とを熱心に依頼しています。九節「あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は豊かであったのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、主の貧しさによって、あなたがたが豊かになるためだったのです」とあります。

これを基準に考えますと、第一に、正しい奉仕とは神の恵みに基づくものであるということですが、それはイエス・キリストの十字架の恵みにより、命懸けの十字架の愛に押し出されてなされるという意味です。マケドニア州の諸教会の人々は三節と四節「彼等は力に依りて、また力以上に、自分から進んで、聖なる者たちを助けるための慈善の業と奉仕に参加させてほしい」と願ひ出たとあります。第二に、奉仕は強いられる

のではなく、自ら進んで応じるものであるということになります。つまり、奉仕は他人に命じられて、強いられるものではないということです。第三に、正しい奉仕は「献身のしるし」であると教えられています。自分自身を聖なる神様に献げる、また、自分の時間、才能、財産、力量等を、主に感謝の徴として献げる、そのあらわれこそが正しい奉仕であると教えています。

したがって、正しい奉仕とは、自分に余裕があるからするのでなく、自分の大切なものでも、今本当に助けを求めている人のために、自分の痛みをもつてささげることであるということです。それが本当の献げものである、正しい奉仕であるのです。ギリシャ語の奉仕という言葉は「ディアコニア」ですが、その意味は直訳すれば、泥を被って前進する、ちりを通してという意味であります。日本を代表する伝道者、植村正久先生は「愛とは相手の必要を知ることである。気がつきませんでした」と記していましたが、「自分の奉仕の限界」を知ることも大事であります。

第四に、最大の奉仕は神への礼拝であり、祈りであり、仕えることであり、伝道することであると教えています。正しい奉仕について聖書に照らして考えてみたいものです。

2011年度 チャペルアワー等献金の報告

〈収入〉		
チャペルアワー献金	174,016円	
クリスマス献金	67,000円	
東日本大震災義援金等	148,388円	
〈支出〉		
東日本大震災義援金 (CFJを通して支援)	181,404円	
CFJ スポンサーシッププログラム	96,000円	
仙台キリスト教育院 他21件	112,000円	

感謝して報告申し上げます。

『私より、私に近くなります神』

詩編一三九編第一―五節

チャプレン・学長

伊藤 忠彦



「主よ、あなたはわたしを究め
わたしを知っておられる」
(第一節)

「絶望しないチンパンジー」と霊長類研究所長の松沢哲郎が書いています。チンパンジーは、目の前にあるものを見て、その時を生きているからだといふのです。

人は目の前にないものを見、想像し、考える。その時だけでなく、過去と未来をも生きている。だから、不安になり、絶望すると言ふことなのです。しかし、だからこそ、松沢

先生は希望を抱けるのが人間だとも書いています。

私たち人間の固有性、特異性が絶望するだけでなく、希望をもつところにあるなら、私たちは、希望をもって生きていることを目指さなければなりません。

そこで思い至るのは、旧約聖書に繰り返して登場するユダヤの王ダビデです。この王はどんなに絶望的状況でも希望に生きた人だと言えます。その理由を、私たちはダビデの、次の詩によって知ることが出来ます。

『主(神)よ、あなたはわたしを究め わたしを知っておられる。座るのも立つのも知り 遠くからわたしの計らいを悟っておられる。歩くのも伏すのも見分け わたしの道にことごとく通じておられる。わたしの舌がまだひと言も語らぬさきに 神よ、あなたはすべてを知っておられる。』

前からも後ろからもわたしを囲み御手をわたしの手に置いていてくださる(詩編一三九編第一―五節)

ダビデは、神様はどんな時でも、また、どんな場所でも、共にいてくださると堅く信じていたのです。

十四世紀中世の大神学者エックハルトは「神は実に私自身よりももっと私に近いといふべきである」(「神の慰めの書」とさ言っています)。

だからこそ、使徒パウロは「途方に暮れても失望せず」(2コリント四・八)と言え、更に、その殉教の時まで生きたのです。

2011年度チャペルアワー等一覧

月日	タイトル	説教・奨励者(敬称略)	月日	タイトル	説教・奨励者(敬称略)
4/11	「チャペルアワーに来よう」	横川剛毅	7/25	「贈物を良く活かす用いなさい」	伊藤忠彦
18	「受ける幸い、与える幸い」	伊藤忠彦	10/17	「毒麦の譬話(たとえ話)」	伊藤忠彦
25	「思い出せ、主の言葉」	辻川 篤 ※イースター礼拝	31	「自身の糧を生きよ」	井狩芳子
5/2	「キリストの愛の泉 -和泉の源泉-」	木村治男 ※創立記念礼拝	11/7	「信仰により、今も語っている」	深町正信 ※百天者記念礼拝
9	「良い隣人となる」	伊藤忠彦	14	「あなたの敵を愛しなさい」	櫻井奈津子
16	「信頼する相手」	横川剛毅	21	「キリストの泉」	佐藤守男 ※ステンドグラス完成奉獻礼拝
23	「最も小さい者の一人にしたのは」	大三島義孝	28	クリスマスツリー点火祭	伊藤忠彦
30	「見えないものに目を注ぐ part2」	松浦浩樹	12/5	「飼い葉桶と十字架」	片山知子
6/6	「人を動かす力」	武石宣子	12	「幼な子はたくましく育ち、知恵に満ち神の恵みに包まれていた」	長山篤子
13	「子どもに向き合い、自分に向き合う」	鈴木敏彦			
20	「愛のわざは小さくても」	山本美貴子	19	「喜びの知らせ」	潮田健治 ※クリスマス礼拝
27	「ものを見るのは目だけではない」	伊藤忠彦	1/16	「変わらないもの」	須田 拓
7/4	「仕えられる者でなく仕える者に」	横山 望	23	「子どものように受け入れる」	横川剛毅
11	「幸い」	長山篤子	30	「私より私に近くなります神」	伊藤忠彦

ステンドグラス完成奉獻礼拝

● 宗教部長 横川 剛毅

クラーク学園50周年記念事業の一環として進められてきたステンドグラス制作。クラークホール高窓への10枚すべての設置が完了したことを受け、11月21日(月)ステンドグラス完成奉獻礼拝を特別礼拝としてお捧げしました。

伊藤忠彦学長による奉獻の祈りが捧げられ、原画を作成された佐藤守男先生が「キリストの泉」と題してお話をされました。イエスキリストの生涯を描いた作品の一つをご紹介され、「イエスは優れたソーシャルワーカーであった」と語られたことが強く印象に残りました。ハンドベル履修者、学生聖歌隊ともにこの礼拝に向けて練習を重ね心から神

チャペルアワー報告

● 宗教委員会

神様のお守りのうちにチャペルアワーをお捧げすることができました。今年度特に強く感じさせられたことは、チャペルアワーの奉仕者の力です。

毎回のチャペルアワーではお話される方一名に立っていただきます。今年度も和泉短期大学と結びつきのある牧師先生として学内のクリスチャンである教員にお願いしました。どの方も大変お忙しい中、ご準備に時間を割いてくださり、お一人

様を讚美しました。この特別礼拝をお捧げできたことを心から感謝いたしました。

お一人が、渾身のメッセージを伝えてくださいました。その姿に深く感銘を受けました。司会者も学内のクリスチャンの教員に担っていただいています。感謝です。

また、奏楽のご奉仕は、非常勤講師でもある石井三枝子先生を中心に、学内の三名の教員にもお願いしました。やはりご準備に時間をとっていただきました。パイプオルガンの豊かな音色とともに讚美できることは私たちの学園の大きな恵みです。

ハンドベル科履修者による演奏、学生聖歌隊による讚美がありました。ハンドベルは今年度から授業化されました。千葉仁先生のご指導とご協力により、後期の特別礼拝で美しい音色が響きました。また、学生聖歌隊は人数が増え豊かな群れとなりました。学生のチャペル委員のチャペルアワーでの奉仕は2年目を迎えました。受付、奉獻、片付けの役割を交代で担ってくださっています。

そして、庶務ユニット職員の支えがあります。準備から片付けに至るまで、見えにくいところで細部まで気を配り、臨機応変に対応しお支えくださっています。

このようにチャペルアワーには多くの奉仕者の力が合わさっています。その姿に刺激を受けること。これはキリスト教主義の学校ならではの恵みだと思えます。語られたことばと、ともに捧げた讚美歌が、和泉の学生の心に残り今後の歩みのなかで何度も引き出されることを願ってやみません。

ハンドベルだより

● 非常勤講師 千葉 仁

今年度からハンドベルは通常の授業に組み込まれ1年、2年合わせて7人が選択しました。ハンドベルは一人一人が異なる音を鳴らします。「天使の響き」といわれているハンドベルは美しい音色で、打ち方により変化し、いろいろなテクニクがあり、奥の深い楽器です。3オクターヴ11名、5オクターヴは14名で受け持つのが標準的です。授業では標準に満たない人数ですので、基本的な打ち方はもとより、片手に異なる音を2個ずつ

持つて別々に、あるいは同時に鳴らす、「フォーイン・ハンド・シエリー」といった技に取り組みました。最初はかなり戸惑っていた履修生も、高度な技術の習得に励み、ハンドベルを始めて1年未満ながらもおもえない程上達し、演奏可能な曲が拡がりました。11月7日「百天者記念礼拝」、14日「ステンドグラス完成奉獻礼拝」では、石井三枝子先生のオルガンとのコラボにより演奏しました。クリスマスシーズには11月28日「クリスマスツリー点火祭」、12月10日「はつびいクリスマスコンサート」、19日「クリスマス礼拝」などの行事で演奏する機会が与えられました。

ハンドベルは一人で演奏するのが困難です。相手の音をよく聴き、呼吸することとがとても大切な要素です。あなたが私のそばにいてくれるから、いろいろなことができる。と隣人の存在に感謝の心を持ちながら豊かにいくことによりハンドベルの音色は歩かになり、喜びも大きくなります。ハンドベルを通じて、履修生の今後のさらなる成長を期待しています。

学生聖歌隊活動報告

● 専攻科 薄井 春香

2011年度は、1年生10名、2年生8名、専攻科3名の21名で顧問の山本美貴子先生と共に活動をしてきました。チャペルアワーをはじめ、入学式、クリスマスツリー点火祭やクリスマス礼拝、子育てサロン「はつびい」のクリスマスコンサート等で讚美しました。

練習は毎週水曜日の昼休みに行いました。聖歌隊のメンバーと共に歌った時間は長いようであつたという間でしたがとても充実した日々でした。

今年度は、1年生が7名、2年生が3名増えたことにより、今まで以上に聖歌隊が活気にあふれ、楽しく活動することができました。

3年間の活動を通して様々な方にお世話になりました。学生聖歌隊の活動を支えてくださった先生方、本場ありがとうございます。今後も学生聖歌隊の活動にご協力をよろしく願います。

ICF活動報告

● 二年 山下 彩

2011年度は、昨年と少し内容を変えて活動をしました。

活動参加人数は、2年生3名、1年生2名でした。毎週一日(前期:金曜日後期:火曜日)お昼休みに宗教センターで祈り会、聖書研究会、讚美をしました。12月には、クリスマスパーティーを開き、イエス・キリストの誕生をお祝いしたり、1月には外部の宣教師をお招きして、交流のひと時を持ちました。

初めの頃に、なかなか1年生が与えられず、少人数で活動をしていました。先生を始め1年生に声を掛けていくうちにメンバーが与えられました。1月頃には、1年生4名、2年生6名と共に活動をすることができました。ICFの活動を通じて、一人でも多くの学生が導かれ、充実した日々を送れることを願っています。また、今後もこのICFというコミュニケーションが生かされていくことを祈っていききたいと思います。

チャペル委員の活動を通して

● 二年 横倉 希

この2年間チャペル・学外研修委員を続けてきましたが、委員として仕事をしていくうちに、キリスト教行事の意味を知り、伝えることができました。その中でも、クリスマスツリー点火祭は多くのことを学び、伝えることができました。1年目は先輩方の仕事を見て真似ることを頑張りました。2年目では、昨年の経験を活かしながら行い、新しく子どもに分かりやすく伝えるため、巨大バレーボールを礼拝の一部に入れたり挑戦もしました。後輩と協力し、お互いに意見を言い合うことで、自分では考えつかなかったことを発見できたりと、より良いものを考え、造ることができました。委員を通して学んだことを保育に活かして、子どもに伝えていきたいと思います。

